

令和3年4月12日

市川市長

村越 祐民 殿

市川市議会公明党

代表 西村 敦

令和3年3月13日の豪雨被害を教訓に治水対策の推進を求める要望

本年3月13日、豪雨による浸水被害が市内各所で発生しました。本市によれば、気象予報でも予測できない程の突発的な豪雨であり、時間最大雨量は51mmを記録し、令和元年の台風15号や台風19号、平成27年の関東・東北豪雨そして平成25年の台風26号よりも多い雨量となった。特にピーク時には10分で15mmも降っており、時間雨量に換算すると実に90mm相当の豪雨であったということです。被害状況については、道路冠水130件、道路規制9件、床上浸水10件、床下浸水34件等（令和3年4月6日17時現在）と市民生活に大きな影響が生じました。

さて、2月5日、政府の「水循環に関する世論調査」の結果が発表されました。「気候変動の影響により水問題がさらに深刻化することが懸念されています。あなたは、どのようなことが心配だと思いますか」という設問に対し、「気候の不安定化による洪水や土砂災害の頻発」と回答した人は85.6%に上っています。このことは市川市民においても同様であると考えられます。

今般のような「気象予報でも予測できない程の突発的な豪雨災害」を詳細に分析し、教訓として今後の対策に生かしていく必要があります。

よって以下の項目について、思い切った予算措置をはじめ、万全の対策を講じていただきますよう要望いたします。

記

1. 避難勧告の発令等、本市が発表した情報の収集手段・発信内容・発信手段等の妥当性について検証すること。先般の豪雨時に、市民から冠水箇所、通行規制箇所等の情報を知りたいとの声があったことから、電子化された下水道台帳の有効利用をはじめ、IoT の活用等を推進し、市民が真に知りたい情報をリアルタイムに提供する仕組みをつくること。
2. 先般のような突発的な豪雨時における避難所開設について検討すること
3. 豪雨による道路冠水による通行車両の立ち往生等が生じていることから、道路利用者の安全確保に資するため、道路冠水想定箇所におけるIoT の活用等によるリアルタイムの状況把握、情報提供体制の整備および迅速・確実な通行止め措置等の事故防止対策を講じること。また、円滑な道路通行確保のための迂回ルートの設定、市民等への情報発信、道路通行者の誘導体制を整備すること
4. 道路冠水想定箇所のうち、物理的に解消可能と考えられる箇所については、マンホールポンプの設置や雨水排水路整備等あらゆる方策を検討し、思い切った予算措置を講じること。
5. 先般の豪雨で冠水した国道 298 号や国道 357 号は幹線道路として重要な役割をもつことから、国に対し、早急な対策を講じるよう強く要請すること
6. 河道改修や調節池等治水施設の整備拡充、河川浚渫工事の実施および雨水貯留浸透施設（学校・公園等）の整備等による保水機能の維持・増大等、真間川流域総合治水対策を強力に推進すること
7. 雨水貯留浸透施設を自主的に設置する民間事業者や個人への金銭的負担軽減への支援強化を図ること

以上